

第 22 回 新型コロナウイルス感染症 (3 月 19 日木曜日)

こんにちは。

長崎大学人、河野茂です。

ひとまず、3月の学長発信メールはこれで終了します。

今日は安田二郎熱帯医学研究所教授との対談です。

皆さんもご存知のように、PCR 検査法が我が国では十分に行える状況ではありません。

この点を克服するために、迅速で簡便な検査法の開発が求められています。

その一つとして安田教授が検査機器会社と共同で開発している LAMP 法です。

LAMP 法と PCR 法はどちらも遺伝子を増幅する方法ですが、PCR 法と違って反応温度の上げ下げをする必要がなく、一定の反応温度でウイルスの遺伝子の特異的に増やすシステムです。

恒温槽の原理で機器を非常にコンパクトにできるため開発中の機器は、重さ 2 キロ弱で、バッテリーで作動し、電力供給が不安定な場所、特に発展途上国でも活用できます。

また、リアルタイム PCR 法だと最低 2～3 時間かかるところを、この方法では最短 10 分ほどでウイルス遺伝子を検出できるという大きなメリットがあります。

キットの開発は最終段階に入っており、現在、長崎市、長崎県の医療機関あるいは保健所等で活用できるように社会実装を目指して関係機関に働きかけています。

県と長崎大学で調整して今月中に大学病院をはじめとする県内の主要関連病院や保健所等に導入できればと考えています。先日、県内初の感染者が出た壱岐のような離島でも使えるようになると考えています。

来月から新学期が始まります。休み中に海外旅行に行ったり、授業の一環としてヨーロッパに行ったりしていた学生が帰国しますが、大学の責任でそのような学生の検査をするなど、万が一の感染を拡大させないように早急に対策を確立する必要があります。

また、学生だけでなく、教職員に関しても注意が必要です。

先日、郡山女子大（福島県郡山市）の教員が新型コロナウイルスに感染していたことが

報道されています。当該教員は大学に無断で私的に海外渡航し、帰国後も大学内の活動を続けたため、郡山女子大のキャンパス閉鎖と卒業式の中止に至っています。本学職員には、教育研究の場である大学の職員として、責任ある行動を取って頂きたいと切に希望します。私は全教職員が社会から信頼と尊敬を得るために本学の行動規範を遵守してくれると信じています。

なお、田中義正教授により本学のホームページに中国で発表された新型コロナウイルス関連肺炎のガイドラインの日本語訳が掲載されています。

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/info/news/news3073.html>